

私のアトリエのとなりにあるマンションの入口脇には、小さな植え込みがあります。広い花壇ではなく、プランターをいくつか並べたほどのささやかなスペースですが、そこに数株のジンチョウゲが植えられています。通り過ぎる人が気づくかどうかというほど控えめな場所ですが、春になると不思議なほど存在感を放つ場所になります。

この植え込みにあるジンチョウゲは、すべて白い花の品種です。一般には外側が淡い紅色で内側が白い花をよく見かけますが、ここに植えられているのは純白の花ばかりです。濃い緑色の葉のあいだから、白い花が丸く集まって咲く姿はとても清楚で、どこか気品のある雰囲気を感じさせます。

毎年、三月中旬になると、このジンチョウゲがちょうど満開になります。花が開きはじめると、まず香りでその存在に気づきます。甘く上品な香りがふわりと漂い、思わず足を止めて花を探してしまうほどです。花は小さくても、その香りは遠くまで届き、春の訪れを知らせてくれます。

今年もまた、変わらず美しい花を咲かせていました。白い花のかたまりがやわらかな光を受け、近づくと爽やかな香りが漂ってきます。マンションの小さな植え込みですが、その前を通る人々に、静かな春のよろこびを届けてくれているようです。こうした身近な場所に咲く花が、街の季節をそっと彩ってくれているのだと感じました。

